

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370204111		
法人名	ヨシケン不動産株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	岡山県倉敷市真備町川辺2136-1		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成29年12月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホーム内には広い庭や畑、ホームからは田んぼや山々が見え、のどかな自然環境の中で四季を感じながら生活が送れるところに立地している事業所です。又、すぐ隣にスーパーマーケット、近隣には学校、病院、駅などもあり、便利さも兼ね備えています。自立・笑顔・夢・希望「自立への喜びは明日への夢と希望一人一人に寄り添う笑顔の介護」を理念に掲げ、利用者、家族とのコミュニケーションを大切に、どんな生活を望まれているか思いを受け入れ、その人らしく生活して頂けるよう支援しています。職員の日々の気付きにより、病気の早期発見やホームでの安心した生活が送れるよう支援に取り組んでいます。毎日の生活の中で最も楽しみにされている食事は、できるだけ地元の新鮮な野菜、果物、米を使用し、時にはホームの畑で収穫した野菜や、家族からの差し入れの物も食卓に上っています。口からの食事を出来るだけ長くして頂けるよう、食事形態を変えたり、食事環境を工夫したりなど個々に合わせた食事ケアを大切にしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居者・職員を大切にしたい運営を心掛けています。働きやすい職場環境が職員の笑顔に繋がり、またそれが入居者の笑顔につながっています。入居者の立場に立った関わりを大切に、職員同士個々の仕事の枠にとらわれず助け合いながら状況に応じて柔軟に対応しています。また、家族・入居者・地域との関係も良く、積極的にコミュニケーションを取り、気持ちに寄り添いながら安心した生活の支援に努めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての入居者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が意見を出し合い、作成した理念である。理念を実践に繋げるために、小さな目標を2か月ごとに立て日々の業務に反映できるようにしている。朝の送りの時に、復唱している。	日々の問題点・課題点を職員同士話し合う機会があり、皆で意見を出し合い理念を基に、小さな目標を立てています。また、それらを振り返り、全職員で共有して実践に繋げる様努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営母体代表者は福祉の充実を願い、高齢者や学校とのイベントを主催し、地域との交流に長年取り組んでいる。定期的にボランティアも来所し、その中には利用者の昔ながらの知り合いの顔も見られ、楽しく会話されている。	入居者と地域の繋がりが以前より増えたことにより、近くのスーパーで顔見知りになることがあり、また、ボランティアも地元の方が多く馴染みの関係に繋がっています。近所の方が気軽に立ち寄れる場所となっており、日常的に交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象とした特別な取り組みは行っていないが、施設見学、体験学習、幅広いボランティアの受け入れ、困りごと相談などに応じ、認知症への理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・民生委員・地域包括支援センター・介護保険課・老人クラブ・ボランティア・近隣グループホーム・グループ会社などの方々にご参加いただき定期的に開催している。当ホームの実情、利用者の状況報告、行事報告などを行い、参加者から意見、助言をいただきサービス向上に生かしている。毎回テーマを変え、勉強会を行い、時には外部より講師を招くこともある。	運営推進会議に対する理解が深まり、事業所の現状報告だけでなく、参加者からの積極的な意見・要望があり、双方向的な会議となり、サービス向上に活かしています。また、参加者の関心を引く話題を職員同士話し合い、毎回勉強会を開催しています。	今後も運営推進会議を通し、天災害時など地域共通の課題として取り組み地域協力を得ながら、サービス向上に活かせる様取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政・地域包括支援センター共に運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みや実情を伝えている。また、行政に対する要望や質問、相談にも応じていただいている。	運営推進会議に毎回参加があり、情報をもったり、分からない事があればその都度相談し協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は7時から20時まで開放、20時以降は防犯のため施錠している。身体拘束についての勉強会を行っており、職員一人ひとりが身体拘束についての具体的な行為を理解するよう努めている。また、言葉の拘束についても日常的に気をつけ、おかしいと思ったらすぐに注意合っている。	職員同士が拘束について具体的に話し合い、共有し意識統一する様努めています。また、勉強会を開催し全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、施設内で勉強会を行っている。自分自身で気をつけているつもりでも、つい感情的になってしまう時もある。そうならない様一人ひとりが意識しながら、気持ちをため込まないようにし、何でも話せる環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年の内部研修で年に1回勉強会を行い、制度の理解に努めている。成年後見制度は利用している方はおられるが、在宅生活ではないので日常生活自立支援事業を利用している方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不明な点や不安がないように詳細に説明し、納得を得て締結するようにしている。また、改正変更事項があったときには、一家族ごとに直接説明を行い、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族とのコミュニケーションを密にし、意見や要望が言いやすい環境作りに努めている。また、家族会や家族アンケートを行い、自由に意見や要望が言える機会も設け、反映させるよう取り組んでいる。	毎月ひまわり通信を送り、日々の出来事・職員の思いを分かりやすく伝える様工夫しています。また、面会時には積極的にコミュニケーションを取り意見など言いやすい様に努めています。面会が難しい方には、写真を送ったり、電話をし意見・要望を聞く機会を設け運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、職員会議などを通して、意見や提案などを聞く機会を設けている。また、日々の業務の中でも、改善点、提案などを積極的に聞き入れ、検討した上でできるだけ反映させている。	日常的に職員同士が相談出来る関係が出来ており、園長は職員が働きやすい環境づくりに努め運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉会議において、「人事考課表」についての話し合いを行っている。労働時間、休み希望等を出来るだけ聞き入れ、個々の事情を考慮し、働き続けることができる職場であるよう、職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し、自分の希望研修に参加できるようにしている。参加費用も事業所が負担をしている。内部研修では、自分の担当する研修内容についての資料作りをしたり、講師的立場になることで更なる知識の習得になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームが運営推進会議に参加していただけるようになり、いろいろな情報交換を行い、サービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談において、信頼関係の構築をするため、丁寧な面談を心掛けている。本人、家族より困りごとや、潜在的なニーズを把握し、入所後の生活に備え、まずは、話しやすい関係を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在家族が困っていること、本人についての情報や話したいことを聞き取り、意向の確認を行っている。本人が席を外すことが可能であれば、1対1で遠慮なく話をさせていただく時間を作るようにしている。入居後もできるだけコミュニケーションをとり、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談に応じた際、グループホームの入所が適切でない事例や、すぐに入所が行えない状況の方に対しても、他の適切なサービス利用に関してのアドバイスや、他事業所の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるということ意識し、利用者のプライド、本人の意志の尊重を重視している。また、出来ることはして頂き、出来ない部分をサポートしながら、生活しているという感覚を忘れないように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子を面会時などに家族に伝え、改善すべきところは相談、提案をして、本人または家族に決めてもらっている。家族の協力を得ながら、本人の思いを実現させていけるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係を、途切れないように支援することは難しいが、日々の会話の中に取り入れたり、昔の写真を見ながら楽しく会話することで、色々なことを思い出していただけるよう努めている。	職員は、写真・会話などから積極的に昔の把握に努め、入居者との会話が増え馴染みの関係が途切れない様に支援に努めています。	今後も全職員が意識して馴染みの把握に努め、支援されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の配置や職員の見守り、声掛けなどに気配り目配りを行っている。また、会話の少ないところでは、職員が間に入り皆が話ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る場合には、当所での生活ぶりなどを詳しく情報提供し、その後も連携が図れるようにしている。その後家族に会った時には、本人の近況などを聞き、必要であれば相談にもっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、意向の把握には少しでも近づけるよう努めているが、困難な場合は、日々の暮らしの中で傾聴や表情から思いを把握し、本人の立場に立ち、職員間で意見交換を行い、できるだけ本人の思いを見いだすようにしている。	入居前の様子を知ることが大切にし、日々の会話の中から本人の気持ちに寄り添える様努めています。また、難しい時は家族などから情報を得て本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活について詳しい聞き取りを行い、入居後も本人や家族との会話の中から聞き取るようにしている。いただいた情報は、職員間で共有し、ケア内容に反映するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態観察を行い、いつもと変わった様子がないか常に気を配りながら、ケアに努めている。一日の様子は記録に残し、状態の変化があれば、きちんと申し送り、情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に聞き取ったアセスメントからケアプランを作成し、入居者の状況に即した日々の変化についてはその都度カンファレンスを行い、必要に応じケアプランの見直しをしている。	本人がより良く暮らす為に、職員・家族・必要な関係者と具体的に話し合い、状況や変化に応じて皆が納得したケアプランの作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調や何か変化があれば個人記録への記入をし、申し送りノートを活用して、小さな事でも全職員が把握して情報を共有するようにしている。モニタリングは、毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランの内容はベースにあるが、日々変化のある要望をされる方に対しては、できる限りニーズに合った対応、支援を行うようにしている。今後もサービスの多機能化に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族(子供、孫)は素より、いつも来園いただく地域ボランティアの方々や、夏祭りに参加してくれる学童保育の子供たち等々、大切な地域資源と捉えている。これからも継続して楽しい時間を共有していけるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が訪問診療を利用している。日々の体調変化を報告し、医師より指示をもらっている。利用者も年々レベルが低下していくので、家族が望む介護、医療方針を医師を交えての話し合いをし、医療連携に努めている。	訪問診療を利用し、医師・看護師と医療連携が整っています。他科受診時は、職員が同行し、情報の共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師に来てもらい、一週間の様子、受診往診の内容を報告し、相談指示を仰いでいる。点滴などが必要になったら、家族が契約を行い、環境を変えずに処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人に関する情報提供を行い、入院中は面会を通じて状況把握をしている。退院が決まればカンファレンスに参加し、情報交換を行い退院後の生活が円滑に進むよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針についての説明を行い同意をいただいている。入居後も一年に1回、意向確認を行っている。また、利用者の状況により、家族、医師ホームの三者で話し合いを重ね、方針を共有するようにしている。職員については、まだ看取りをあまり経験していないので、今後更なるスキルアップのため勉強をしていく必要がある。	職員は看取り経験は少ないが、状況に応じて関係者と話し合い、本人・家族にとって一番良い形で支援出来る様、意識統一に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、勉強会も行っている。緊急時における必要事項を一人ひとり1冊のファイルにまとめ、連絡者にスムーズに伝わるようにしている。また、救命講習も全職員受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力を得て、利用者も一緒に防災訓練を行っている。災害時の地域との協力体制は難しい(周りに民家がない)ので、グループ会社職員の協力体制を整え、訓練にも参加してもらっている。	昼夜問わず様々な時間帯を想定して、消防署の協力を得ながら避難訓練を行っています。また、グループ会社の職員にも訓練に参加してもらい、協力体制を築く様努めています。	災害はこれで良いという事は無いので、今後も様々な災害に備えて訓練し、職員自身も被災することも考慮して、地域との連携に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者が長い間一緒に過ごすことで馴染みの関係が馴れ合いになる傾向があるので、全職員で注意し合うように努めている。敬う気持ちを忘れないよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、時間がかかっても職員が待ち、本人の思いを引き出し納得してもらえる様努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように受容を心掛けている。。本人に考えてもらえる時間を持つように努め、自己決定できない方には、いくつかの選択肢を用意し、希望に添える様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、できるだけ希望に沿った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら整容が出来ない方は、職員が行っている。入浴時や更衣をする時は、好みなどを聞きながら本人と一緒に選んでいる。2か月に1回理容師に散髪してもらい、ヘアスタイルや身だしなみには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベル低下により、一緒に料理をすることは難しい。出来る方には、野菜の皮むき、食器拭き、テーブル拭きなどを手伝ってもらっている。行事の時に、巻き寿司作りやおやつへのトッピングなど、楽しめる場を作り支援している。	介護度が上がっても、皆と同じ食事が食べられる様形態を変えるなど工夫しながら取り組んでいます。また、必ず味見をし、相手の気持ちに寄り添いながら楽しい食事が出来る様支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の水分量、食事摂取量をチェックし、把握している。嚥下機能の低下により摂取量が低下している方には、高カロリー補助食品で補ったり、形態を変えたりしている。また、水分が摂りにくい方は、水分ゼリーを提供したり、むせやすい方には、トミを使用し、一人ひとりに合った対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる方は声掛け、見守りにて口腔ケアを行い、自分でできない方は、介助にて行っている。また、個々に合わせた口腔ケア用品（口腔ケアスポンジ、ガーゼ、うがい薬など）を使用し口腔内の清潔保持に努めている。義歯は、夜間に洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレの声掛け、誘導を行い、できるだけトイレでの排泄ができるよう促している。排泄パターンが把握できない時には、職員同士で情報交換をし、把握できるようにしている。おしめやパットの使用は、一人ひとりに適したものを検討している。	個々の自立を見て、本人にとって一番良い排泄方法を職員同士情報を共有し、状態変化があれば遅滞なく対応に努め、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ身体を動かしたり、水分摂取をしてもらうよう働きかけている。排便が困難な方には、薬を使用し排便コントロールをしている。排便状態によっては、医師に相談し、薬を調整したり、処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯はある程度決まっているが、本人の体調や気分によっては様子を見ながら、日にちや時間を変更するなど柔軟に対応し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	なるべく入居者の希望に添える様、同性介助・入浴順など工夫しています。入浴拒否には、原因を考え気持ちよく入浴できる様支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態を見て、臥床する時間を確保している。寝たきりの方には、安楽な体位が保持できるよう体位や姿勢の工夫をしている。また、安眠できるようあかりや温度の調節もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の服薬の状態が確認できるようファイルにまとめている。薬の変更や臨時薬が出た時には必ず申し送りし、目的、副作用も確認している。かかりつけ薬剤師と連携し、解らないことや気になることはすぐに尋ね、様子観察に努めている。錠剤が飲みにくい場合は、飲みやすい形態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事、ボランティアの方によるイベント、リクリエーション、買い物、ドライブ、個々の楽しみごと等々で気分転換を図るようにしている。お手伝いをしていただける方にはお願いし、役割を持っていただくことで張り合いのある生活をしていただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には隣のスーパーマーケットへ買い物に行ったり、年に数回行事で外出、外食の機会を作り気分転換をしていただいている。外出が難しい方は、天気、体調に考慮し庭に出てみたり、ホームの周りを散歩している。家族と一緒に出かける方もおられる。	夜間以外は玄関の出入りが自由で、日常生活の中で、お庭を散歩するなど外に出る事が普通に行える様支援しています。外出が難しい方は、体調をみながら車椅子で外気浴をするなど五感刺激に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、お金の所持はできないことにしている。必要なものや欲しいものがある時には、職員と一緒に買い物に行き、ホームの立替で購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、いつでも電話をかけることができるようにしている。家族から電話があった時には、本人が満足できるまでお話していただいている。手紙のやり取りは難しいので、絵手紙のようにして年賀状などを出そうと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度調節や明るさは利用者に合わせ、共用空間は清潔を保ち、整理整頓を心掛けている。毎月、壁画を作成し、その時期にあった食べ物や行楽を連想しやすいよう工夫している。玄関先のベンチに座り、花や田んぼ、行きかう車、学校に行く子供等々を見て、生活感、季節感を感じてもらえるようにしている。	職員は、一日の中で入居者全員と一対一で話をする機会を作れる様努め、疎外感を感じることなく居心地よく過ごせる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、屋外への移動が自由になるので、玄関先のベンチで独りのんびりと景色を眺めたり、ソファーや畳スペースで気の合うの者同士で楽しくおしゃべりしたり、思い思いの過ごし方ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇、テレビやCDラジカセ家族との写真等々、本人が必要なものを持ってきていただいている。転倒やケガをする危険のあるものは取り除いているが、出来るだけ本人の希望に沿った生活感のある居室づくりを心掛けている。	今までの生活習慣を大切に、危険がない限り制限はなく、本人・家族の思いに沿った居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング等に障害物になるものは置かず、利用者の動線上には手すりをつけ、安全に移動ができるようにしている。トイレや自分の居室がわかりやすいように表示している。		